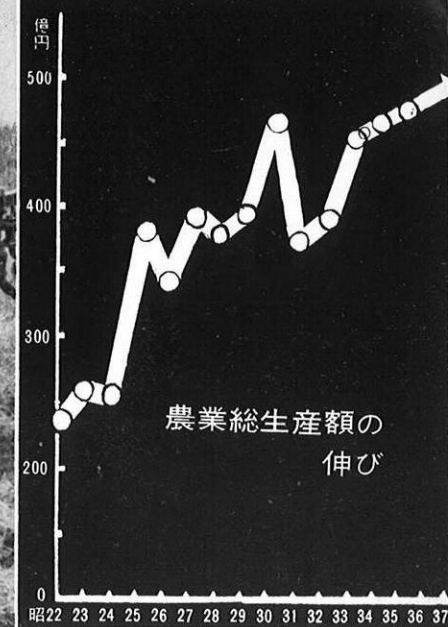
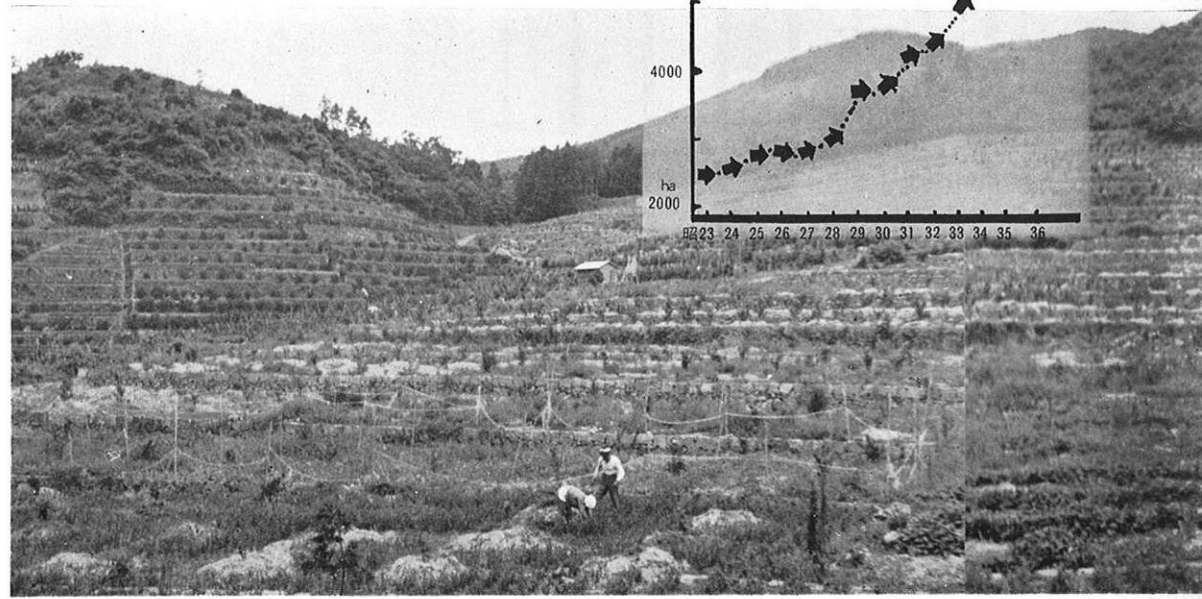
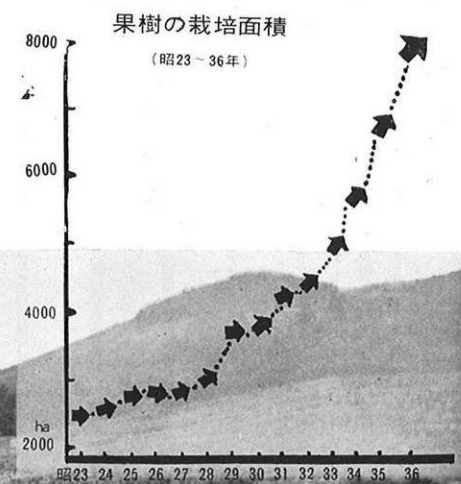


■県民の畜産食品の消費状況をみると、昨年の実績では、1人当たり1年間に牛乳35本、卵は97個、肉類2.3kgと、欧米諸国の約10分の1程度。県計画では、昭和45年までにこれらの家畜を2～3倍にふやす計画である。



■ここ15年間の農業総生産額の推移を、戦後のインフレによる値上がり分を35年の総合物価指数で修正してみると、2倍に伸びてきているものの、かなりの変動がある。
 変動の山をなす25、27、30年と33年以降は、すべて米の豊作の年、谷間にあたる年が不作の年である。
 しかし、全体的に上昇傾向にあるのは、畜産、果樹、工芸作物、養蚕、野菜など商品生産の伸びによるものである。



■成長産業といわれる果樹の増植は、30年頃から急速にのび、36年度は1年間に約1,350haが増植されたほど。現在の総面積は約7,900ha、総生産量約60,000tで、面積の67%はミカンである。県計画では、45年までにさらに10,500haを増植する計画。

